

令和6年度 災害対応マネジメントセンター活動報告

1. 国や宮城県等の行政組織、自衛隊等の外部組織による訓練・研修会への参画

1) 訓練・研修会

(1) 「みやぎ県民防災の日」総合防災訓練

開催日時	2024/6/12(土)9:00～16:00	当院参加者	プレイヤー：5名、コントローラー：2名
訓練概要	「みやぎ県民防災の日」に毎年宮城県が開催する総合防災訓練。 午前中は、県庁101会議室にて保健医療調整本部及びDMAT調整本部を設置、災害対応活動を行う訓練を行い、午後は翌日想定で被害の全容把握黄から応急対策確立期の対応を行った。		

(2) 宮城県 9.1 総合防災訓練

開催日時	2024/9/1(日)9:00～12:00	当院参加者	—
訓練概要	※今年度は気仙沼で規模縮小して実施したため、参加せず		

(3) 大規模地震時医療活動訓練(政府訓練)

開催日時	2024/9/27(金)～9/28(土)	当院参加者	プレイヤー：4名、コントローラー：1名
訓練概要	政府が主催する、首都直下型地震を想定した大規模地震時医療活動に関する総合的な実動訓練。 当院よりDMAT1隊出動し、レンタカーにて守谷SA参集地に参集後、東京都東北部医療対策拠点DMAT活動拠点本部(東京女子医科大学足立医療センター内)にて本部活動を実施。 コントローラーとして君津・安房・夷隅医療圏活動拠点本部下の君津中央病院大佐和分院にて病院避難のコントローラーを実施。		

(4) 仙台空港航空機事故対応総合訓練

開催日時	2024/10/10(木)13:45～15:00	当院参加者	コントローラー：3名
訓練概要	仙台空港緊急計画における「定期的な訓練の実施」に基づき行う総合訓練。悪天候下で、航空機同士が衝突した際の医療対応について、自衛隊格納庫を活用した受入れ、および自衛隊ヘリを活用した医療チームの投入について検証を行った。		

(5) 東北ブロックDMAT参集訓練

開催日時	2024/10/4(土)～10/5(日)	当院参加者	プレイヤー：4名、コントローラー：3名
訓練概要	山形県庄内平野東縁断層帯を震源とするマグニチュード7.5の地震発生に伴う大規模災害を想定し、東北ブロック各県DMATと関係機関との緊密な連携により被災地における緊急治療、病院支援、広域医療搬送等を迅速に行うことができるよう実践的訓練を実施した。		

(6) 大型旅客船事故対応訓練

開催日時	2024/10/25(水)9:00～12:00	当院参加者	—
訓練概要	当院総合防災訓練10/27(金)の直前であったため、参加せず。		

(7) みちのくALERT2024

開催日時	2024/11/16(土)9:00～15:00	当院参加者	プレイヤー：5名、コントローラー：3名
訓練概要	4年に1回自衛隊が実施する実働訓練だが、コロナのため2018年以来6年ぶりの実働訓練となった。岩手県沖を震源とする地震が発生し、宮城県北部で最大震度6強を観測、大津波警報発令し、大津波を観測した想定で、離島駐屯地を医療搬送拠点として設置・運用する訓練を実施した。		

2) 宮城県からの委託事業

(1) 宮城県災害医療技能研修

開催日時	2024/12/12(木)～12/13(金)	受講人数	県内の災害拠点病院に所属する病院職員および東北大学履修プログラムの災害GP(コンダクター型災害保健医療人材の養成プログラム)の受講生を含む40名
		講師・タスク等	講師19名、タスク32名、事務4名
研修会概要	日本DMAT隊員養成研修会の局地災害に当たる1.5日分の研修を厚労省が定める要項に沿って実施した。実働訓練に傷病者役で参加いただく大崎市医師会附属高等看護学校で事前説明会を実施した。		

(2) 宮城県医療救護活動従事者研修会

開催日時	2025/3/15(土)～3/16(日)	受講人数	20名
		講師・タスク等	講師・タスク 40名
研修会概要	D24H(災害時保健医療福祉活動支援システム)の避難所アセスメントツールとして起用されたアプリの使用方法を学び、災害時に有用な各種通信機器を実際に体験し、総合演習として通信機器を使用した本部間の連絡調整を体験する、二本立ての研修会を実施した。		

3) 会議

(1) 災害医療コーディネーター・災害拠点病院連絡会議・宮城DMAT連絡協議会合同会議

開催日時	2025/1/21(月)18:15～19:30	当院参加者	5名、うち災害対応マネジメントセンター3名
会議概要	令和6年度の活動状況や各災害拠点病院における訓練実施状況、コーディネーター任命状況、DMAT関連事業の実施状況と令和7年度の予定について情報共有された。		

(2) 令和5年度 危機対策連絡会(みちのくALERT調整会議)

開催日時	2025/1/29(水) 9:10～16:20	参加者	—
会議概要	他の業務と重なり出席できず		

2. 院内活動

1) 院内訓練・研修会

(1) 令和6年度 東北大学病院総合防災訓練【CBRNE災害対応訓練】(本部・外来支部・多数傷病者対応訓練)

開催日時	2024/11/1(金) 13:00～16:30	参加人数	483人
研修会概要	2019年以来5年ぶりのCBRNE災害対応訓練。災害対策本部、外来支部、多数傷病者対応訓練(除染対応エリア・診療エリア)を実施した。		

(2) 令和6年度 宮城県原子力防災訓練

開催日時	2024/11/1(金) 13:00～16:30	参加人数	28人
研修会概要	東京オリムピックに向けて実施した2019年以来ぶりのCBRNE災害対応訓練。災害対策本部、外来支部、多数傷病者対応訓練(除染対応エリア・診療エリア)を実施した。		

2) 各種委員会活動

(1) 災害対策委員会活動

災害対策委員会	年間3回開催(不定期開催)。総合防災訓練や病院の災害対応に係る体制、運用、マニュアル等の検討、調整がなされた。
本部WG	不定期開催。令和5年度の総合防災訓練における災害対策本部活動の課題について継続して対応を検討。 総合防災訓練前に、本部勉強会を2回(10/24、10/31)実施した。
外来防災部会	毎月第1木曜日開催。令和5年度の総合防災訓練における課題や、CBRNE災害災害発生後の外来棟における初動対応、新設部門の設置・運用について検討。 10/23に総合防災訓練の事前勉強会を実施した。
総合防災訓練WG・マニュアル改定WG	毎月第3木曜日に実施。令和5年度の総合防災訓練における課題やCBRNE災害対応訓練への準備や災害対策マニュアル改定に係る対策の検討などを実施。 10/11 多数傷病者対応部門(救命救急センター)勉強会、10/15 多数傷病者対応部門(事務部門)勉強会、11/1 AM 多数傷病者対応訓練勉強会を実施した。
CBRNE対応WG・実務調整WG	令和6年度のCBRNE災害対応訓練に向け、毎月最低1回ペースでCBRNE災害対応マニュアルの改訂、除染対応エリアのアクションカードおよび資機材等の整備、黄緑エリアの運用およびアクションカードや資機材整備を実施し、DMAT隊員や病院職員への勉強会を開催した。

(2) 緊急被ばく医療専門委員会活動

緊急被ばく医療専門委員会	年間2回開催(不定期開催)。宮城県の原子力災害対応体制や原子力災害訓練への参加、次年度の補助金所要額等について調整がなされた。
緊急被ばく医療実務調整WG	原子力防災訓練前に2回開催。宮城県で開催される原子力災害訓練に向け、対応エリアのレイアウトや養生・防護服を改訂、アクションカードを更新。訓練前に、養生の準備、座学、実習の事前勉強会を実施。

(3) BCP(Business Continuity Plan:事業継続計画)委員会支援

BCP委員会	毎月第3水曜日に実施。病院BCPの更新、ブラッシュアップ、講演会を実施。
BCP事務局会議	毎月第1月曜日に実施。BCP委員会の実務調整、各種検討課題の進捗、BCP委員会の方向性の検討を行った。
BCP講演会	今回で第6回目となるBCP講演会(テーマ:原子力災害への取り組み)を実施。

3) DMAT活動

(1) DMAT定例会兼 災害コーディネート部門企画会議	毎月第2火曜日に実施。DMAT活動に関する情報共有、訓練の事前勉強会、準備、活動報告、研修会の準備等を行った。
(2) 災害関連業務調整会議	第2・第4木曜日に実施。DMAT年間計画にある実動訓練準備や宮城県ロジ部会の通信訓練、宮城県委託事業の準備、院内の総合防災訓練準備、災害対応物品整備等を行った。
(3) 宮城県DMATロジ部会通信訓練	年に4回(3ヶ月に1回)、宮城県のロジ部会を中心に、衛星携帯電話、MCA無線、EMIS入力訓練を実施した。

4) 実動

令和6年度はなし

5) 教育活動

(1) 2年次医学研究PBL

令和6年度は日程が合わず、実施できず。

(2) コンダクター型災害保健医療人材の養成プログラム

概要	課題解決型高度医療人材養成プログラム(平成30年度)にて、「コンダクター型災害保健医療人材の養成プログラム」が選定。令和4年度末で文科省の補助期間終了後も、東北大学の災害マネジメントコース(履修証明プログラム)、大学院コース(博士課程)、大学院コース(修士課程)、社会医学系専門研修コースとして継続中。 履修期間2年間の災害マネジメントコースでは、14必須科目があり、集合研修を主軸とした研修会を実施している。
----	--

6) 災害対応マネジメントセンター活動

開催日時	毎月第一、第三月曜日を基本に開催。令和6年度開催実績:19回
概要	災害対応マネジメントセンターで対応している、院内外の災害対応、各種研修会・訓練に関する進捗報告、企画運営についての調整などを実施した。

令和 6 年度 災害対応マネジメントセンター活動報告

報告期間：令和 6 年 4 月～令和 7 年 3 月

1. 国や宮城県等の行政組織、自衛隊等の外部組織による訓練・研修会への参画

1) 訓練・研修会

(1)「みやぎ県民防災の日」総合防災訓練

開催日時：2024/6/12（土）9:00～16:00

訓練概要：

「みやぎ県民防災の日」に毎年宮城県が開催する総合防災訓練に県内の医療機関が参加し、保健医療調整本部、DMAT 調整本部の活動を行う。

訓練想定：

◆2024/6/12（土）午前 9 時に三陸沖を震源とする地震（震度 5 強～6 弱）が発生。大津波警報が発表され、津波による浸水が多数発生し、死者、負傷者、行方不明者、全壊及び半壊が多数発生。道路寸断、停電し孤立地域が発生。

◆女川原発で地震発生 6.5 時間後に、機器故障等により施設敷地緊急事態（SE）に進展。23 時間後に原子炉注水機能を喪失し、全面緊急事態（GE）に進展。※放射性物質放出前

訓練会場：宮城県庁舎（101 会議室・2 階講堂・各執務室）

参加機関：宮城県庁職員、県内災害拠点病院職員（災害医療コーディネーター、DMAT、日赤救護班、災害薬事コーディネーター）

訓練内容：

午前：初動対応の確認及び関係機関との連携体制の確立（安否確認・被害情報収集・本部設置等）

午後：被害の全容把握期から応急対策確立期への移行
（他県からの派遣チーム（DMAT 等）の受援調整、
ライフラインや医療機器等の支援要請への対応、救助機関との活動調整）

当院参加 DMAT

【プレイヤー】：医師：1 名、看護師：2 名、業務調整員：2 名

【コントローラー】医師：1 名、看護師：1 名

本訓練における活動内容および結果と課題：

1. AM: 初動対応の確認及び関係機関との連携体制の確立

（訓練想定日 6/12 の実時刻想定）

集まった医療チームで、チームビルディングを行い、DMAT の本部見取り図に応じて役割分担を行った。各医療機関の垣根を超えた役割分担を実施した。災害医療コーディネーターとチームで入った当院は、災害医療コーディネーター付きのチームとして活動を行った。当初予定されていたレイアウトを変更し、本部/活動指揮を中心に配置し、クロノロと現状分析と課題への反映を行った。

PM: 被害の全容把握期から応急対策確立期への移行（訓練想定翌日 6/13 の実時刻想定）

午後からは、発災翌日を想定した情報付与のもと、保健福祉医療調整本部としての活動を実施した。DMAT 調整本部と日赤救護班活動調整本部や災害薬事コーディネーターと連携しつつ、EMIS による宮城県内の全医療機関の被害情報の集約と、他県 DMAT の受援調整、各医療機関への物資補給調整、航空搬送拠点の設置検討などについての調整を行った。2F 講堂の災害対策本部にリエゾンとして DMAT 隊員を派遣し、他組織からの情報収集及び対応等について、常時、医療調整本部との連絡を密にした。

本訓練を通して、本部内における情報班の人員配置や本部内各班への業務役割分担の指示、本部内ミーティングのタイミング、各チームの本来の役割を担保したチーム構成、連絡調整に WEBMTG の活用などが課題として挙げられた。



(2) 宮城県 9. 1 総合防災訓練

※今年度は気仙沼で規模縮小して実施したため、参加せず

(3) 大規模地震時医療活動訓練（政府訓練）

開催日時：2024/9/27（金）～28（土）

前日訓練：9/27（金）11:00 発災（EMIS 一斉通報）

- DMAT 事務局及び被災地各県庁により前日訓練を実施
- プレイヤーは、出動 DMAT 登録、DMAT 活動状況入力を実施

当日の実動訓練：

9/28（土）6:30～17:00 頃

訓練目的：

首都直下地震を想定し、「首都直下地震における具体的な応急対策活動に関する計画」（平成28年3月29日中央防災会議幹事会決定、令和5年5月23日最終改正）に基づき、国、地方公共団体等が連携して、大規模地震時医療活動に関する総合的な実動訓練を実施し、当該活動に係る組織体制の機能と実効性に関する検証を行うとともに、防災関係機関相互の協力の円滑化を図る。

- 首都直下地震を想定
- 令和6年9月28日（土）11時発災予定

想定被災地：想定被災地：東京都、埼玉県、千葉県、神奈川県

通信状況：

被災地である埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県内では携帯電話、固定電話ともに音声通話不可であり、それら以外の衛星電話等を使用すること。インターネット環境については、携帯各社のモバイル Wi-Fi 等の使用は可、訓練当初は衛星携帯電話によるインターネット接続を実施。

道路状況：

高速道路施設（サービスエリア）に設置される参集拠点までは高速道路・一般道路ともに通常のルートで通行可、それ以降の被災地内の高速道路・一般道路については、EMIS 等により当日の状況付与を行う場合がある

給油：参集拠点の SA で給油可能、そのほかは、当日状況付与参加機関：

内閣官房、内閣府、警察庁、消防庁、厚生労働省（DMAT 事務局含む）、国土交通省、海上保安庁、防衛省、国立研究開発法人宇宙航空研究開発機構、日本赤十字社、中日本高速道路株式会社、東日本高速道路株式会社、東京都、埼玉県、千葉県、神奈川県、石川県ほか

主な訓練項目及び実施主体：

- 地域医療活動訓練（本部運営、地域医療搬送、参集拠点設置、SCU運営等）（都道府県（支援：DMAT 事務局））
- DMAT の参集、活動訓練（DMAT 事務局、都道府県）
- 広域医療搬送訓練（内閣府、厚生労働省・DMAT 事務局、防衛省、都道府県ほか）

訓練参加 DMAT（医療機関）：

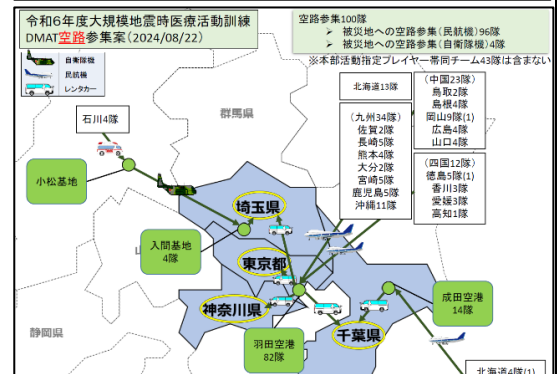
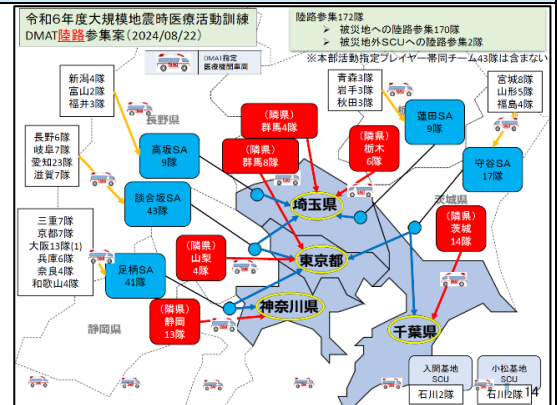
- 被災地内の医療機関：対象都道府県：埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県
- 訓練プレイヤー（DMAT/チーム参加）：302 病院 316 チーム（約 1,500 人）

対象都道府県：被災地を除く都道府県

被災地外からの支援 DMAT のみ（被災地外医療搬送拠点での活動隊含む）

- 訓練コントローラー/指定プレイヤー：354 人
対象都道府県：被災地を除く都道府県（DMAT インストラクター、タスク等）

当院プレイヤー・コントローラー配置場所



活動場所	所在地	当院参加状況	参加職種等
東京都区東北部医療対策拠点 東京女子医科大足立医療センター	東京都	DMAT1 チーム	医師 1 名、看護師 2 名、 業務調整員 1 名
君津中央病院大佐和分院	千葉県君津市	インストラクター1 名	看護師 1 名

【プレイヤー】

活動内容：大宮を経由し、守屋 SA 参集拠点本部で受付し、区東北活動拠点本部（東京女子医科大学足立医療センター内）に向かうよう指示あり、移動。到着後、同活動拠点本部の本部活動の指示あり、活動開始。各隊員は、活動指揮、搬送調整、連絡係の役割を遂行。現状分析と課題シートに沿って情報収集し、定期 MTG を実施し、MTG で出た方針に従って活動実施。

結果と課題：統括資格を持つ隊ということで本部活動に吸収され、隊活動はできなかった。活動拠点本部としての受付業務等、活動拠点本部としての初動体制の構築や、本部内の役割分担と指揮命令系統、業務分担と業務遂行の重要性を認識できた。本部内の各部門の横断的な情報共有、連携を密に図り、ミーティングを実施することにより、さらに本部活動が円滑に進むことを学んだ。

【コントローラー】

活動内容：君津中央病院大佐和分院（病院避難）のコントローラーを担当した。病院職員とともに、災害発生後の初動体制の確認、院内災害対応組織の立ち上げ、病院の被害状況の把握と被害に対する対応を行った。その後君津中央病院 DMAT チームが到着、現状分析と課題シートをもとに現状把握を行い、上位本部に報告、搬送されてくる傷病者対応も含めた病院避難に向けた調整のサポートを行った。

結果と課題：千葉県の君津・安房・夷隅医療圏における被害状況は首都直下地震の被害想定上、医療チームの分配数は少なく、医療圏内の 3 医療機関の DMAT チームを含む 5 チームで対応することとなった。君津中央病院の分院である大佐和分院の医療搬送は君津中央病院への集中搬送となり、そこから分散搬送する搬送フローとなった。令和元年台風 15 号病院避難時に君津中央病院に集中搬送し、その後二次搬送した経験より、搬送フローの判断は非常に早く、派遣された DMAT による搬送手段の確保および病院職員による入院患者の搬送準備（サマリーの記入、荷物の整理等）も手際よく対応できていた。「現状分析と課題」を用いた情報集約および共有は、活動方針を明確にし、病院職員および DMAT 間の相互理解も深めて病院避難の業務を円滑にし、分院で対応に当たった医療者全員が機能的に役割を遂行できていた。

(4) 仙台空港航空機事故対処図上訓練

開催日時： 2024/10/10（木）
10:00～11:00 通報訓練
13:45～15:00 図上訓練

訓練目的：

仙台空港緊急計画における「定期的な訓練の実施」に基づき図上・部分訓練を実施することとし、2023 年度仙台空港航空機事故対処総合訓練（荒天により中止）の代替訓練を踏まえ、関係機関と課題解決に向け、検討、検証するとともに更なる連携強化と対応力の向上を目的とする。

訓練項目：

- (1) 情報伝達訓練 (2) 救護所設営訓練 (3) 負傷者選別訓練
- (4) 医療救護訓練 (5) 搬送訓練 (6) 警戒及び入場規制訓練
- (7) その他必要な訓練

※ (2) ～ (6) はエリア設営のイメージのみ

訓練会場：自衛隊エプロン、格納庫等（陸上自衛隊岩沼訓練所）

訓練主催：仙台空港緊急計画連絡協議会
（事務局：仙台国際空港株式会社）

訓練参加者：約 80 名
訓練車両 約 4 台（救急車 1 台）ヘリコプター 2 機
（陸上自衛隊）

訓練参加機関：国土交通省東京航空局仙台空港事務所、宮城県岩沼警察署、防衛省陸上自衛隊多賀城駐屯地第 2 即応機動連隊、日本赤十字社宮城県支部、一般社団法人仙台市医師会、一般社団法人岩沼市医師会、名取市消防本部、あぶくま消防本部、仙南地域広域行政事務組合消防本部、ALSOK 宮城株式会社、東北大学病院、仙台国際



空港株式会社

当院参加者：災害対応マネジメントセンター：3名

訓練想定：10時、SDJ航空2024便がB滑走路に着陸するも滑走路を右に逸脱し、出発のためC誘導路を走行中のXYZ航空420便と衝突。その衝撃により両機は爆発。自衛隊エプロン付近で炎上中。両機は乗員・乗客の緊急脱出を開始した。（令和6年元旦に発生した航空機事故を想定した訓練想定）

実施内容：航空機同士の衝突事故が発生すると災害現場が2か所できるが、本訓練では、事故機の2機は近い場所に停止炎上しているため、トリアージ地区、救護所などを一カ所に設営した。また、大崎市民病院や石巻赤十字病院等の医療チームを自衛隊ヘリで輸送し、現場への医療者の早期投入訓練が実施された。

成果と課題：2基の航空機内に取り残されている負傷者数を正確に把握するために搭乗者名簿を早急に手配することや、どちらの機体の傷病者かをトリアージタグに記載する方法等について検証がなされた。また、格納庫内のテントの設置方法や医療資機材の使用方法、自衛隊ヘリを使用した医療チームの早期現場投入についても検証が行われた。航空機同士の衝突事故が発生した場合の、傷病者管理、トリアージポストや救護所の展開場所、悪天候時の対応、早期医療チームの現場投入について、検証することができた。



(5) 東北ブロックDMAT 参集訓練

開催日時：2023/10/4（金）～10/5（土）

前日訓練：10/4（金）EMISによるDMATの派遣要請、各本部設置、通信訓練等

実動訓練 10/5（土）

検証会（オンライン）：10/11（金）

訓練目的：

東北ブロック各県DMATと関係機関との緊密な連携により被災地における緊急治療、病院支援、医療搬送等を迅速に行うことができるよう実践的な訓練を実施する。

訓練主催：山形県

訓練想定：

庄内平野東縁断層帯を震源とするマグニチュード7.5の地震発生に伴う大規模災害を想定。

訓練会場：

県庁、庄内保健所、災害拠点病院（県立中央病院、県立新庄病院、鶴岡市立荘内病院、日本海総合病院等）、庄内空港、被災想定地域の救急告示病院・福祉施設など

参加・協力機関：

災害拠点病院、山形大学医学部、救急告示病院（庄内、最上地域）、消防本部（山形市、最上、鶴岡、酒田）、庄内地区特別養護老人ホーム連絡協議会、陸上自衛隊、海上保安庁、庄内空港ビル（株）、県関係部局（健康福祉部、防災くらし安心部、庄内保健所、庄内空港事務所等）など

訓練項目：

- (1) 県災害対策本部及び支部の設置・運営訓練
(会場：県庁、庄内保健所)
- (2) DMATの参集・活動訓練
- (3) 病院災害対策訓練
- (4) SCU設置・運営訓練

訓練参加DMAT：

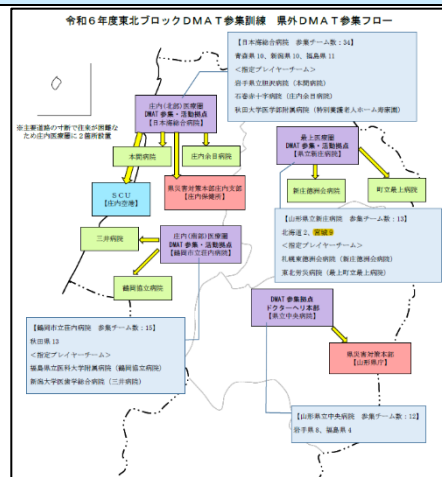
東北ブロック7県（青森県、岩手県、宮城県、秋田県、山形県、福島県、新潟県）及び北海道のDMAT74チーム

当院参加DMAT

◆山形県最上医療圏DMAT参集・活動拠点本部（県立新庄病院内）

【プレイヤー】医師：1名、看護師：2名、業務調整員：1名

活動内容：山形県立新庄病院に到着後、最上医療圏活動拠点本部（山形県立新庄病院内）の搬送調整業務



(搬送先確保、搬送手段確保、搬送患者リスト作成、搬送フローの確立)にあたり、活拠内ミーティング及び県調整本部と傘下の活拠定期ミーティングに参加する。

結果と課題：医療県内の医療機関が 5 医療機関のみで搬送先の確保が困難を極めた。また、活動拠点本部担当範囲内の搬送フローの確立が不十分であった。

【コントローラー】看護師：1 名

活動内容、今後の課題：活動拠点本部コントローラーとして活動。訓練に割り当てられたチーム数と医療圏の事情に応じた本部チームの構成等に関する検討が必要。

◆庄内空港 SCU

【コントローラー】医師：1 名

活動内容：庄内空港 SCU の立ち上げ、運営のサポート

◆庄内保健所

【コントローラー】医師：1 名

活動内容：庄内総合支庁における災害医療コーディネーターおよび庄内保健所のサポート

(6) 大型旅客船事故対応訓練

※2024/10/25 (水) 開催、当院総合防災訓練が 10/27 (金) であったため、参加せず。

(7) みちのく ALERT2024

開催日時：2024/11/16 (土) 9:00~15:00

訓練概要：

前回、みちのく ALERT2018 以来、6 年ぶりの実働訓練開催。

訓練想定：

11/15 (金) 9 時頃、岩手県沖を震源とする地震が発生し、宮城県北部で最大震度 6 強を観測、大津波警報発令し、女川原発が警戒事態へ移行。9:53 分気象庁は石巻市鮎川観測所で津波 (5.6m) を観測と発表し、岩手県及び宮城県石巻市が孤立地域であることが判明。

11/16 (土) 女川原発が情報収集事態へ移行。早朝、上陸適地の現地確認完了。渡波海水浴場が使用可能な状況であることが判明。

訓練会場：霞目駐屯地、仙台病院、石巻赤十字病院

訓練内容：

霞目医療搬送拠点の運営

- ① DMAT・日赤救護班・自衛隊共同で医療搬送拠点を運営
- ② 傷病者は他の訓練と連携して搬送

石巻赤十字病院との連携

- ① 病院と自衛隊が連携し傷病者のトリアージ、受入れ等の訓練を実施
- ② 自衛隊ヘリを使用して傷病者の搬送を実施

訓練企画：9 月 25 日 第 1 回 MTG in 県庁

10 月 24 日 第 2 回 MTG in 当院

11 月 14 日 第 3 回 MTG in 当院

12 月 19 日 訓練後の振り返り MTG in 当院

参加 DMAT：東北大学病院、仙台市立病院、大崎市民病院、登米市立病院、気仙沼市立病院 計 28 名

※DMAS (日本災害医学会学生部会) 4 名

【当院プレイヤー】：医師：1 名、看護師：2 名、業務調整員：2 名

【当院コントローラー】医師：1 名、看護師：1 名、業務調整員：1 名

本訓練における活動内容および結果と課題：コロナ禍も挟んだ 6 年ぶりのみちのく ALERT 訓練にて、震災後に関係性を構築していた担当者も変わり、自衛隊内の DMAT に関する知識や SCU 設置に関する訓練の積み上げがほとんどない状況となっており、その中で、訓練の企画・運営を実施するにあたり、事前の打ち合わせを重ね、訓練を実施することができた。訓練中には、SCU の本部スタッフと自衛隊スタッフの連絡調整が頻繁に行われ、お互いの活動について理解を深めつつ、協同して課題に取り組む姿が見られた。

訓練後には企画担当者間で振り返りを行い、今回の成果と課題を共有し、今後の自衛隊と医療の連携に関する自衛隊からの訓練希望が聞かれた。



2) 宮城県からの委託事業

(1) 宮城県災害医療技能研修 企画担当：4 名

開催日時：2024/12/12（木）～12/13（金）

開催会場：集合研修

実施機関：東北大学病院（宮城県委託事業）、災害 GP 共催

参加機関：

県内災害拠点病院（石巻赤十字病院、大崎市民病院、気仙沼市立病院、仙台医療センター、仙台市立病院、東北医科薬科大学病院、東北労災病院、オープン病院、みやぎ県南中核病院、東北大学病院）、宮城県、石巻消防局

参加人数：受講生 40 名（うち災害 GP 受講生 5 名）、講師 19 名、タスク 32 名、事務 4 名

※災害 GP:コンダクター型災害保健医療人材の養成プログラム

内容：日本 DMAT 隊員養成研修会の局地災害に当たる 1.5 日分の研修を厚労省が定める要項に沿って、実施した。

成果：局地災害に特化した 1.5 日研修会の内容をプログラムに沿って実施。事前の e-learning も活用し、研修会当日は実習に重きを置いた内容とした。8 月に改訂となった中央の研修会プログラム内容を一部反映し、宮城県内の災害対応可能な医療従事者の育成に寄与することができた。



大崎市医師会附属高等看護学校事前説明会 企画担当：3 名

開催日時：2024/11/26（火）

実施内容：救護所訓練で傷病者役となる傷病者役の学生に対し、以下を実施

1. 災害対応・トリアージについての座学
2. ムラージュについての説明
3. 症例毎の演技指導



(2) 宮城県医療救護活動従事者研修会 企画担当：4 名

開催日時：2025/3/15（土）～3/16（日）

開催会場：東北大学災害科学国際研究所

実施機関：東北大学病院（宮城県委託事業）、災害 GP 共催

参加機関：県内各医療圏における保健支部、行政、医療機関および災害 GP 受講生

参加人数：受講生 20 名（うち災害 GP 受講生 7 名）
講師・タスク 40 名

内容：研修会内容は大きく 2 つの内容から構成される。

1. 避難所アセスメント

コロナ禍における避難所運営や避難所のアセスメント方法、D24H（災害時保健医療福祉活動支援システム）の避難所アセスメントツールとして起用された東北大学病院が開発した RASSEC-GM の使用方法について、アプリによるデータ入力と、集約されたデータを本部として分析、対応を検討する実践的な対応方法について学ぶ。

2. 災害医療救護通信研修

総務省の事業として実施していた災害医療救護通信エキスパート研修（通称 DCOME）の後継研修会として、講義内容をブラッシュアップし、各種通信機器を実際に体験する内容を盛り込み、総合演習として、通信機器を使用した本部間の連絡調整を体験する。

成果：令和 7 年度より厚生労働省で本格運用開始された 24DH（災害時保



健医療福祉活動支援システム)の施設・避難所等ラピッドアセスメントシートを用いた避難所アセスメント、アプリによる入力、本部画面による避難所のデータ分析など、実践に即した内容での研修会を実施できた。また、災害時に有用な衛星携帯電話による音声通信機器、データ通信機器、両方が可能な通信機器など、体験することで、通信機器を身近に感じていただいた。また、総合演習により、本部での情報収集や共有方法、前日使用した通信機器を活用した通信実習を通して、より理解が深まり、受講生のほぼ全員が職場の同僚や上司に勧めたいと回答いただいた。



3) 会議

(1) 災害医療コーディネーター・災害拠点病院連絡会議・宮城DMAT連絡協議会合同会議

開催日時：2025/1/21（火） 18:15～19:30

当院参加者：5名、うち災害対応マネジメントセンター3名

議事：

- (1) 地域保健医療福祉調整本部・仙台市の令和6年度活動状況について
- (2) 災害拠点病院の訓練実施状況について
- (3) 災害医療コーディネータの任命状況について
- (4) 令和6年度DMAT関連事業における実施状況と令和7年度予定について
- (5) その他

成果：令和6年度の活動状況や各災害拠点病院における訓練実施状況、コーディネーター任命状況、DMAT関連事業の実施状況と令和7年度の予定について情報共有された。

(2) 危機対策連絡会（みちのくALERT調整会議）

※他の事業と重なり出席できず

2. 院内活動

1) 院内訓練・研修会

(1) 東北大学病院総合防災訓練（本部・外来支部・多数傷病者対応訓練）

企画運営担当：4名

開催日時：2024/11/1（金） 13:00～16:30

訓練会場：①災害対策本部訓練：東4階第5会議室

②外来支部訓練：キャンサーボード室

③多数傷病者対応訓練：先進医療棟前駐車場および先進医療棟1階

実施主体：災害対策委員会

参加者：

病院長、副病院長、看護部長、高度救命救急センター長、総合地域医療教育支援部長、事務部長、事務次長、事務部各課室長および補佐、事務職員、各診療科、
看護部、中央診療部門、中央監視室、警備員、災害科学国際研究所、災害対応マネジメントセンター等

参加人数：本部訓練：34名、外来支部訓練：21名

多数傷病者対応：除染対応エリア：50名

診療エリア：101名

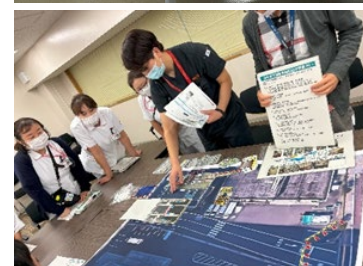
各部署：25名、運営：9名（ムラージュ：5名）

医学部学生（傷病者・搬送）：107名

アシスト入力部署担当者：134名

合計：483名

外部評価者：2名



訓練までの準備：

1. CBRNE 災害対応【DMAT 隊員向け勉強会】

- 6/20（木）CBRNE 災害対応勉強会①（座学）1 回目
- 6/25（火）CBRNE 災害対応勉強会①（座学）2 回目 …計 35 名
- 7/16（火）CBRNE 災害対応勉強会② 防護服着脱訓練（1 回目）
- 7/23（火）CBRNE 災害対応勉強会② 防護服着脱訓練（2 回目）
…計 32 名
- 8/26（月）CBRNE 災害対応勉強会③ 病院受入時機上シミュレーション
＋除染対応エリアの各エリア実習（1 回目）
- 9/11（水）CBRNE 災害対応勉強会③ 病院受入時機上シミュレーション
＋除染対応エリアの各エリア実習（1 回目）…計 35 名

2. CBRNE 災害対応【病院職員向け勉強会】

1) 8/23(金)

「ベネフィットリスクバランスを加味した新たな CBRNE 災害対応
～本当に人命を救うための対応～」

講師：神奈川県立病院機構理事長 阿南英明先生 …計 54 名

2) CBRNE 災害対応勉強会①（座学）は動画視聴

【WEB】CBRNE 災害対応勉強会 …計 36 名

3) 9/12（木）CBRNE 災害対応 除染対応エリア勉強会② 防護服着脱訓練（1 回目）

4) 9/20（金）CBRNE 災害対応 除染対応エリア勉強会② 防護服着脱訓練（2 回目）…計 32 名

5) 10/7（月）看護部リンクナース勉強会 …計 32 名

6) 10/21（月）CBRNE 災害対応除染対応エリア勉強会③実習 …計 72 名

3. 災害対応勉強会（例年実施）

- 10/11（金）高度救命救急センター事前勉強会…約 10 名
- 10/15（火）多数傷病者対応事務部門向け勉強会…40 名
- 10/23（水）外来支部事前勉強会…約 20 名
- 10/24（水）災害対策本部勉強会（座学）…27 名
- 10/31（木）災害対策本部実働訓練 …27 名
- 10/31（木）災害対策本部本部開放・自由見学…27 名
- 10/31（木）高度救命救急センター
多数傷病者対応部門事前勉強会＋資機材準備…約 15 名
- 11/1（金）AM 多数傷病者対応訓練勉強会…約 100 名

4. 訓練後の対応：

11/1（金）総合防災訓練当日振り返り：（集合＋WEB 形式）

11/21（木）総合防災訓練 WG（各部門振り返り）

主な結果と課題：

【災害対策本部】

昨年度の本部訓練の振り返りより、本部構成員の登録や本部設置、チームビルディング等の流れは実施できた。初動において災害レベル3Bの情報共有が十分になされない、クロノロ担当が増員されない、活動中、本部に入ってきた情報が手順を踏まず直接本部長に上がるなど、情報共有や処理過程に課題が見られた。先進医療棟前のライブ映像は投影されていたが、本部内で十分に活用されていなかった。本部内 MTG の報告や議題も地震の内容と同じ内容であり、災害の種別により、議事運営を適宜修正するなどの対応が求められる。

【外来支部】

昨年の課題をもとに本部内の医療調整担当者の業務内容やフローが整理されていたので外来支部内がうまく機能していた。CBRNE 災害対応という特殊な環境下で、地震ではない災害レベル3Bの待機解除までの対応を経験し、判断が難しい部分もあったが、災害対策本部に打診、方針が示され、本部との連携もうまくできた。アシストのシステムの現状がマニュアルに反映されていなかったため、更新が必要。



【多数傷病者対応訓練】

除染対応エリア：2019年の実働訓練以来5年ぶりのエリアの展開、人員配置で実施した。今回は除染テントのみ訓練前に設置し、ゲートコントロール、除染対応エリアの資機材の設置、人員配置、チームビルディング、傷病者受け入れ、除染対応等実施したが、各段階、各エリアにおいて、種々の課題があり、今後、運用面も含めて体制を構築し、マニュアル・アクションカードの改訂、資機材整備を進めていく必要がある。

診療エリア：今回は除染対応エリアに人を配置することもあり、院内の診療エリアは、除染後トリアージ、統括、赤、黄、黄緑エリアに限定して実施した。除染後トリアージエリアでは、緑と黄緑トリアージや私物管理の業務が入り人員不足とともに搬送手段が不足し混雑した。黄緑エリアは臨時の場所で実施したが、黄Ⅱと緑の資機材が混在して使用されるなどの混乱があった。また、CBENE 災害特有の症状に対する診療方針についての共通の理解が必要と思われた。

成果：東京オリンピックやその後の G7 対応などで整備してきた CBRNE 災害体制を検証し、多くの課題が抽出された。実災害に対応すべく、今後、CBRNE 災害に特有な除染対応エリア、除染後トリアージエリア、黄緑エリアでの課題に対し、運用面と資機材の整備を進め、マニュアル・アクションカードに落とし込んでいく。



(2) 令和7年度 宮城県原子力防災訓練

開催日時：2025/2/13（金） 8:30~12:30

訓練目的：原子力災害時における適切な被ばく医療活動を行うため、「宮城県原子力防災緊急時被ばく医療活動マニュアル」に基づく関係機関の連携を実施し、各機関における被ばく医療対応の習熟を図る。

訓練概要：毎年宮城県主催で、女川原発と県内で指定された原子力災害拠点病院が参加して実施する訓練。（令和5年度は能登地震のため中止となり、前回から6年ぶりの開催となる。）

訓練想定：2025年2月13日（木）8時00分、大きな地震が発生。女川原子力発電所において地震後の設備パトロールを実施中の発電所員2名が現場資機材の崩落を受けて被災する。2名とも「外部汚染」があり、うち1名は飛散した粉塵（放射性物質）を吸入し「内部被ばく」する。

参加機関：

（行政機関）宮城県、青森県、福島県

（医療機関）

【原子力災害拠点病院】

石巻赤十字病院、東北大学病院、仙台医療センター

【原子力災害医療・総合支援センター】

弘前大学、福島県立医科大学

【原子力災害医療派遣チーム】

弘前大学医学部附属病院、青森県立中央病院、

八戸市立市民病院

（搬送機関）石巻地区広域行政事務組合消防本部

（事業者）東北電力㈱

訓練項目：

- (1) 原子力災害医療関係機関の連携（県、医療機関、搬送機関、事業者）
- (2) 搬送機関（石巻広域消防、仙台市消防局（想定））による汚染・被ばく傷病者の搬送、原状復帰
- (3) 原子力災害拠点病院（石巻赤十字病院、東北大学病院、仙台医療センター）における汚染・被ばく傷病者の受入れ、医療処置、原状復帰
- (4) 原子力災害医療派遣チームの派遣（派遣準備依頼、派遣要請、派遣調整）
- (5) 原子力災害拠点病院から高度被ばく医療支援センターへの転



院搬送の調整

訓練会場（実動）：

石巻赤十字病院、東北大学病院、仙台医療センター

当院の訓練会場：高度救命救急センターER

実施主体：宮城県

参加機関：

宮城県、東北電力本社・東北電力女川原発、石巻消防、

石巻赤十字病院、東北大学病院、仙台医療センター

院内参加部署：

高度救命救急センター、放射線科、放射線部、事務（施設企画課）、

陽光ビルサービス、災害対応マネジメントセンター

院内評価者：4名（放射線科、放射線部、救命救急センター、災害対応マネジメントセンター）

外部評価者：2名（弘前大学災害・被災者医療教育センター）

参加人数：28名

訓練までの事前勉強会：

2/4（火）原子力災害対応勉強会（座学）

2/10（月）原子力対応勉強会（実習）

訓練結果：前回実働訓練を実施した2018年度から6年ぶりの訓練となり、近年の放射線管理区域の概念を盛り込み、養生や防護服を簡略化、ブラッシュアップした形で事前準備、事前勉強会を行い訓練に臨んだ。診療対応に当たった医療従事者は、原子力災害対応研修会参加等の経験のないスタッフであり、診療中の放射線の測定や各種検査のタイミング、放射線管理区域と拡大防止エリアへの理解が難しい状況であった。

成果：6年ぶりに訓練を実施できたが、その間、コロナ対応等で原子力災害医療の体制を醸成することが難しく、訓練後、プレイヤーより、事前の勉強会の内容や実習について、詳細かつ実践的な内容への希望があった。弘前の支援センターより石巻赤十字病院との連携や、それを踏まえた上で当院の診療対応を行う必要があり、シナリオについてのブラッシュアップの必要性について指摘があった。



2) 各種委員会活動

(1) 災害対策委員会 企画運営担当：4名

開催日：2024/6/19：メール審議

WEB会議：第1回：8/5 WEB会議、第2回：2025/2/25

議題等：

6/19：令和6年度総合防災訓練実施要項」により今年度の総合防災訓練を実施することについてメール審議を実施し、承認された。

第1回：令和6年度委員会構成員について、メール審議結果について、令和5年度および令和6年度予算について、CBRNE災害対応マニュアルの策定について、BCP委員会からの協議事項、東病棟工事に伴う多数傷病者対応時の代替候補地について、各WG活動報告、アシスト入力訓練報告、DMAT定例会報告

第2回：災害対策各種マニュアルの改訂について、令和6年度総合防災訓練実施報告、BCP委員会からの協議事項に係る進捗報告、各WG活動報告、アシスト入力訓練報告、DMAT定例会報告

※災害対策委員会には、下記WG・部会が紐づいており、災害対応マネジメントセンターは各WG・部会と連携して活動を行っている。

本部WG 企画運営担当：3名

開催日：2024/6/19、8/26、10/23、12/18、2025/1/7 ※すべて対面

議題等：令和5年度の総合防災訓練における本部活動の振り返りにより、本部受付、本部設置手順、役割分担、チームビルディング等、体制強化に関する検討を実施。また、本部で使用する資機材や掲示物の整理も行い、誰もが本部活動をスムーズにできるよう、体制整備を行った。また、震度5弱、5強時の情報収集体制をブラッシュアップしたことや、本部における情報収集や共有課題解決に向けたフローを整理し、メモ用紙を使いやすく更新するなど、本部内の円滑な活動を考慮し、課題解決に向けた作業を進め、本部マニュアルのブラッシュアップを図った。

第1回 本部事前勉強会（座学） 企画運営担当：3名

開催日時：2024/10/24（水） 10:00～11:30

テーマ：CBRNE 災害における本部活動

目的：CBRNE 災害の特徴を知り、病院の災害対策本部における本部設置、情報収集および初動対応について学ぶ。

内容：病院としての役割、本部立上げの初動対応から具体的な設置手順、アクションカードの役割やクロノロの記載方法の講義を行った。

参加者：災害対策本部活動を行う事務職員 27名

成果：CBRNE 災害の特徴や当院としての対応を理解いただいた。また、災害レベル3で災害対策本部設置が設置される際の本部の役割や、災害対策本部の初動対応、具体的な本部設置方法や、アクションカード、チームビルディングと役割分担、クロノロの記載方法、具体的な本部の情報共有方法など、本部の一連の活動について理解いただくことができた。



第2回 本部事前勉強会（実働） 企画運営担当：2名

開催日時：2024/10/31（木） 10:00～11:30

テーマ：CBRNE 災害の発生を想定した災害対策本部における本部設置、情報収集及び初動対応

目的：災害発生直後の災害対策本部立ち上げ、本部の初動対応および活動を理解し、動けるようになる

内容：開始時刻となったら担当事務局員が東4回第5会議室に参集し、参集者の名簿作成や、作成した本部レイアウトをもとに災害対策本部を設置し、アクションカードの配布、チームビルディングを実施した。また、本部に入ってくる情報への対応方法について所定のメモ用紙を使用し、クロノロを記載する等の訓練を実施した。

参加者：災害対策本部活動を行う事務職員 27名

成果：座学で学んだ本部活動を、実践としての経験する機会となった。災害対策本部の初動対応の流れに沿って、受付や本部の設置、アクションカードやビブスの配布、チームビルディング、情報管理を経験することにより、災害対策本部の初動対応がイメージでき、訓練や実災害に向けた心構えを持つことができた。

第3回 本部開放・自由見学 企画係が実施

開催日時：2024/10/31（木） 13:00～16:30

目的：座学や実働訓練で消化しきれなかった活動や資機材の配置、設置方法について、訓練参加者に自主的に確認いただく機会とするため。

内容：本部を開放し、自由に見学いただいた。

参加者：27名

成果：訓練前日に、実働訓練と合わせて実働後に、疑問点の解消や資機材の場所、設置方法について確認することにより、より、本部活動に対する知識を深める機会となった。

外来防災部会 企画運営担当（アドバイザー）：2名

開催日：毎月第1木曜日開催：2024/5/2、7/4、8/1、9/2、10/3、11/7、12/5、
2024/1/9、2/6、3/6

開催形態：WEB形式

議題等：令和5年度の総合防災訓練で出た課題と継続課題を中心に、外来支部の人員配置や役割分担の整理を行った。6/24 外来新設部門 MTG を実施し、外来における新設部門の担当部署の整理や、災害発生災害レベル3時の外来患者の帰宅に関しては、17時までは「帰宅支援」17時以降は「帰宅困難者対応」を行うこととした。「帰宅支援班」については担当部署に新規にアクションカードを作成いただいた。また、災害レベル3時の診療中止に際して配布する「外来診療中止時の対応について」の検討を行い、完成させた。外来の初動対応時に重要となる非常用トイレ設置についても、マニュアルを更新し、12/16 地連主催で非常用トイレ設置訓練を実施した。外来防災部会で検討した種々の内容について、外来マニュアル改定作業を実施し、令和7年度月上旬に開催予定の部会にて確認、承認、リリースとする予定。

総合防災訓練 WG 企画運営担当：4名

開催日：毎月第3木曜日開催：6/20、7/18、8/22、9/19、10/17、11/21、12/19、1/16、
2/20、3月祝日のため休会

開催形態：WEB会議

議事等：今年度の訓練テーマが CBRNE 災害対応となり、実働訓練では、2019 年以来 5 年ぶりとなることから、2020 年の東京オリンピックや G7 対応などで検討、構築してきた体制を検証するために訓練に

向けた WG 活動を実施した。今年度は病院に患者を入れる前の除染対応エリアの構築および、CBRNE 災害対応マニュアルの策定、および資機材の整備、また、病院全体への教育活動に力を入れて実施した。CBRNE 実務調整 WG が CBRNE 災害対応マニュアルやアクションカードを整備すると並行して、2019 年度の実働訓練では歩行可能な CBRNE 症状のある傷病者は「黄」のため「黄」エリアで診療したが混乱したため、「黄緑」エリアを設置して、新設エリアの資機材や書類等の準備、アクションカードの整備も実施した。訓練関連部署との情報共有や各種 MTG を実施しつつ、訓練準備を進めた。

マニュアル改定 WG 企画運営担当：4 名

開催日：毎月第 3 木曜日開催 4/18、5/16

※訓練 WG とマニュアル改定 WG は表裏一体であり、訓練終了後に訓練 WG⇒マニュアル改定 WG として活動し、訓練に向けた WG 活動のキックオフ後は、訓練 WG として活動する。

開催形態：WEB 会議

議事等：2023 年度に実施された総合防災訓練の振り返りからの課題解決に向けた検討、マニュアルおよびアクションカードの改訂を実施した。また、2024 年度に実施した実働訓練の振り返り内容より、除染対応エリアおよび、院内の診療エリアに大きく分けて課題を抽出し、課題解決に向けて対応策を検討した。

被害情報入力訓練・被害状況入力システム「アシスト」改修他 企画運営担当：2 名

開催日：毎月第 1 金曜日 13:30～のアシスト入力訓練

議題等：毎月企画係が放送実施し、訓練結果を集計したものを災害対策委員会に定期的に報告。アシストの運用やインターフェースの改善について、改修項目のピックアップ、改善案を施設企画課企画係と検討し、業者に発注。その後の進捗の確認等を確認、入力率が低い場合には対策を検討し、対応を実施。毎月の入力状況について災害対策委員会にて毎回報告を実施。

CBRNE 対応 WG 企画運営担当：2 名

開催日：2024/7/17（メール審議）

CBRNE 実務調整 WG において作成された CBRNE 災害医療対応マニュアル（案）および資料集（案）についてのメール審議を実施し、7/29 承認された。

CBRNE 対応実務調整 WG 企画運営担当：2 名

開催日：2024/6/11、7/11、8/6、8/22、10/16、11/6、1/14、3/18

活動内容：

- ① 2023/5/12～13 に仙台で開催された G7 仙台科学大臣会合時に作成した CBRNE 災害対応マニュアル（暫定版）をエリアごとに役割分担し、ブラッシュアップした。
- ② 除染対応エリアの各エリアアクションカードを整備した。
- ③ 除染対応エリア各エリアの資機材をブラッシュアップした
- ④ 黄緑エリアの運用について検討し、資機材、アクションカードを整備した
- ⑤ DMA T 隊員や病院職員向け勉強会の企画運営を行った。
- ⑥ 訓練時の評価担当を実施した。
- ⑦ 訓練後の振り返りを実施し課題を抽出した。
- ⑧ 私物管理に関する他部門との MTG を開催した。

(2) 緊急被ばく医療専門委員会 企画運営担当：2 名

開催日および議題等：

2024/10/2 メール審議（令和 6 年度宮城県原子力防災訓練への本院の参加について）

11/5 令和 6 年度原子力防災訓練日程決定通知

2025/1/30 令和 6 年度原子力防災訓練資料配信

2025/3/10 メール審議（宮城県原子力災害医療施設等整備事業費補助金所要額について）

緊急被ばく医療実務調整 WG 企画運営担当：2 名

開催日：2024/12/20 第 1 回実務調整 WG（1 回目）

12/24 第 1 回実務調整 WG（2 回目）

2025/1/22 第 2 回実務調整 WG

活動内容：

12/20・12/24 2/13 実施予定の原子力防災訓練の概要説明および今後の活動方針について連絡調整
1/22 訓練当日の担当者確認、勉強会予定確認、養生関連物品の準備

(3) BCP (Business Continuity Plan: 事業継続計画) 委員会

開催日: 毎月第3水曜日定期開催

議題等: 病棟 BCP や BCP の読み合わせを中心とした訓練の実施サポート、すでに策定した部署の BCP 第6版に向けた改訂作業の進捗確認を実施。緊急設備点検の実施および報告、IT-BCP の確認およびリリース、また、総合防災訓練との連携の調整や、先進医療棟における大規模地震時を想定した酸素供給体制の構築、外来 BCP、病院避難等について検討。

BCP 事務局会議 BCP 事務局員: 2 名

開催日: 毎月第1月曜日開催

議題等: 東北大学事業継続計画 BCP についてのブラッシュアップや、IT-BCP に関する情報共有や進捗情報の共有、先進医療棟の酸素供給体制の構築についての検討、外来 BCP の進め方の検討、病院避難に関する検討、BCP 講演会に関する検討等について継続的に MTG を持ち、BCM を継続し、BCM の重要性についても認識を共有。

第6回 東北大学病院 BCP 講演会

開催日時: 2025/3/14 (金) 18:00~19:30 (17:30 開場)

実施主体: BCP 委員会

会場: 臨床中講堂 (臨床講義棟 2 階)

テーマ:

【第一部】「当院における原子力災害の BCP の取り組み」

講師: 竹内孝至先生 (診療技術部放射線部門)

【第二部】特別講演「原子力災害の BCP の取り組みと課題」

講師: 大葉隆先生

(福島県立医科大学保健科学部 診療放射線科学科)

【第三部】総合討論

参加人数: 51 名

内容および成果: 第一部では、当院には原子力災害対応に関する BCP は未策定だが、原子力災害対策マニュアルおよびアクションカードを整備しており、社会情勢に合わせて、原子力災害体制の整備、また県主催の原子力防災訓練に参加し、原子力災害に対する整備を進めていることを病院職員と共有した。また、東日本大震災における福島原発および福島県立医科大学における対応について学ぶことにより、女川原発がある原発所有県として、また原子力災害拠点病院として果たすべき役割を共有できた。



3) DMAT 活動

(1) DMAT 定例会兼災害コーディネート部門企画会議 企画運営担当: 4 名

開催日: 毎月第2火曜日定期開催 16:00~17:00

ハイブリッド (現地+WEB) 開催: 4/9、5/19、7/9、8/13、9/10、10/8、11/12、12/10、1/14、1/27 新 EMIS 勉強会、3/11

議題等: 各種調査報告、令和6年度 DMAT 年間計画と年間計画に基づく案内 (募集・中止等の状況報告)

および各種訓練や研修会の事前勉強会・訓練準備の実施、DMAT の資格更新のための技能維持研修会の案内や事前学習等の連絡、近年の災害に関する最新の情報共有や、厚生労働省より発出される通知文の共有、緊急連絡網のアップデート、DMAT 隊員が参加した訓練や研修会の報告、DMAT 医療資機材の整備状況、代替 EMIS に関する情報共有および研修会の案内・実施をおこなった。上記に加え、今年度の総合防災訓練のテーマである CBRNE 災害対応に関する勉強会のアナウンス等を実施した。また、新規日本 DMAT 隊員、宮城 DMAT-L 隊員の紹介や、オリエンテーションを実施した。

(2) 災害関連業務調整会議 企画運営担当: 3 名

開催日: 第2木曜日と第4木曜日の 14:00~15:00

※災害関連業務調整会議は、DMAT 隊員が院内外の災害関連業務を行うために、病院長に病院業務として認めていただいた活動時間。

※実際には、開催日前後のイベント等の状況により、柔軟に対応している。

開催日および活動内容:

4/25 DMAT 標準資機材整備 WG

5/23 除染テント設置訓練 (原子力災害対応用除染テント)

6/6 第1回宮城県口シ部会通信訓練 (EMIS 入力・通信訓練)

6/13 DMAT 標準資機材整備 WG

6/16 第1回宮城県口シ部会通信訓練 (材料部入力訓練)

6/27 除染テント設置訓練（原子力災害対応用除染テント）
 7/11 DMAT 標準資機材整備 WG
 8/8 除染テント設置訓練
 8/8 DMAT 標準資機材整備 WG
 8/22 総合防災訓練準備（CBRNE 災害対応勉強会準備）
 9/3 第2回宮城県ロジ部会通信訓練（EMIS 入力・通信訓練）
 9/3 第2回宮城県ロジ部会通信訓練（材料部入力訓練）
 9/12 DMAT 標準資機材整備 WG
 9/26 除染テント設置訓練（原子力災害対応用除染テント）
 10/24 総合防災訓練事前準備
 11/14 DMAT 標準資機材整備 WG
 12/3 第3回宮城県ロジ部会通信訓練（EMIS 入力・通信訓練）
 12/4 第3回宮城県ロジ部会通信訓練（材料部入力訓練）
 12/26 DMAT 標準資機材整備 WG
 2025/1/23 DMAT 標準資機材整備 WG
 3/13 第4回宮城県ロジ部会通信訓練（EMIS 入力・通信訓練）
 第4回宮城県ロジ部会通信訓練（材料部入力訓練）

成果：院内の総合防災訓練に向けた CBRNE 災害に対する対応や、院外の各種訓練への準備・事前勉強会、通信訓練など、災害に関する多岐に渡る内容について、災害関連業務調整会議を有効に活用することにより、DMAT 隊員の知識や技術のブラッシュアップにつながり、病院の災害体制整備に貢献することができた。

(3) 宮城県 DMAT ロジ部会通信訓練 企画運営担当：3 名

開催日：第1回：6/4（火）～6/6（木）
 第2回：9/3（火）～9/5（木）
 第3回：12/3（火）～12/5（木）
 第4回：3/11（火）～3/13（木）

訓練内容：訓練①：EMIS 入力訓練（DMAT としての入力訓練）
 訓練②：衛星携帯通信訓練
 訓練③：MCA 無線通信訓練
 訓練④：各医療機関における滅菌機器情報入力訓練訓練

参加機関数・当院参加者数：

	訓練①～③		訓練④	
	参加医療機関数	当院参加者数	参加医療機関数	当院参加者数
第1回	16	6	12	3
第2回	16	6	7	3
第3回	16	6	5	3
第4回	16	6	4	2

成果：宮城県内の災害拠点病院と事前に連絡を取り、グループ内で定期的に幹事病院を交替して取り組んだが、慣れた担当者とな慣れない担当者で訓練の進行や確認作業が不十分なケースがあり、訓練実施要項（マニュアル）を改訂することとなった。また、訓練の活性化を図るために県内の災害拠点病院における担当者リストを作成するとともに、ロジ部会 MTG を開催し、宮城県内のロジおよびロジ業務に興味のある医師や看護師の隊員も含めたロジ部会 ML を作成することとなった。訓練参加報告書を作成し、訓練に参加した医療機関に報告書を提出いただき、各医療機関の訓練状況の把握および今後の訓練の在り方について検討していく予定。令和7年4月より新 EMIS へ移行となることから、新システムを早く使いこなせるよう、訓練体制の整備、周知を図っていく。



4) 実動

今年度当院として活動した実働はなし

5) 教育活動

(1) 2 年次医学研究 PBL 企画運営：3 名

※開催日程が合わず、今年度は実施できず

(2) コンダクター型災害保健医療人材の養成プログラム 企画運営：4 名

経緯：「医療現場等で課題となっている事柄に貢献できる人材の養成」をテーマに文科省で公募された、課題解決型高度医療人材養成プログラム（平成 30 年度）にて、「コンダクター型災害保健医療人材の養成プログラム」が選定された。

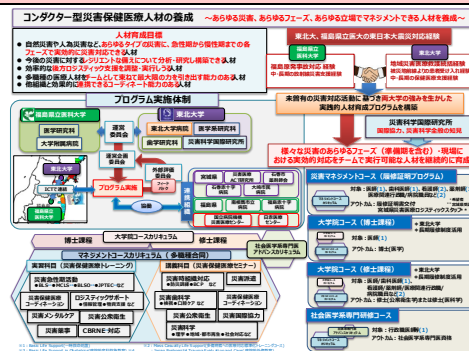
概要：

1. コンダクター型災害保健医療人材の養成プログラムでは、災害マネジメントコース（履修証明プログラム）、大学院コース（博士課程）、大学院コース（修士課程）、社会医学系専門研修コースがある。
2. 災害マネジメントコースでは、以下の 14 必須科目がある。
 1. CBRNE 対応実習、2. 災害保健医療コーディネーションセミナー、3. 災害保健医療コーディネーション実習、4. 災害急性期活動実習、5. 災害公衆衛生セミナー、6. 災害公衆衛生実習、7. 災害時組織対応セミナー、8. 災害メンタルケア実習、9. 災害派遣セミナー、10. 災害科学概論、11. 災害薬事実習、12. 災害国際協力セミナー、13. 災害歯科学、14. ロジスティックサポート実習

今年度の実績：文科省の補助期間は令和 4 年度で終了しているが、引き続き、東北大学の履修プログラムとして継続して実施している。全 17 研修会を実施し、令和 6 年度のプログラムでは、災害 GP 受講生のべ 129 名、オープン参加者 702 名が受講した。2025 年 3 月末までに、新規に 2 名/計 44 名が修了した。

災マネ業務内容：科目 1、4、7、14 については企画運営から研修実施の全行程に携わり、それ以外の研修会についても、講師との連絡調整、進捗管理や当日の研修会サポート等を行っている。

成果：コロナ禍が明け、多くはコロナ禍前同様の集合研修にて開催し、コロナ禍中に浸透した WEB 研修会の利点も活用しながら、WEB 研修会＋集合研修のハイブリッド形式も取り入れつつ、受講生にアクティブなプログラムを提供できた。また、各必修科目の内容については、近年増加している自然災害や社会情勢に合わせた内容にブラッシュアップし、最新の災害医療対応を反映した。受講生の多様な背景もあり、活発な意見交換が行われ、経験値の共有の場として機能しており、災害医療人材の育成に貢献できていると考える。



災害時組織対応セミナー 企画運営：2 名

開催日：2024/9/7（土）

開催時間：9:00～16:10

研修会会場：東北大学災害科学国際研究所

目的：災害時における組織としての災害対応について学ぶ

- ・東日本大震災における病院の初動体制、復旧までの経過を学ぶ
- ・災害対策マニュアル改定と実動訓練の企画・運営について理解できる
- ・平時から災害時への 病院対応のシームレスな移行のための BCP 運用について理解できる

概要：東日本大震災の経験や、病院の災害対応（マニュアル改定や訓練企画運営）に携わってきた経験を、受講者と共有し、所属施設での災害対応構築に役立てていただく目的で実施。

実施内容：BCP についての講義、東日本大震災における病院対応から災害対策マニュアルおよび訓練の企画・運営プランを立てる。

参加人数：受講生 9 名、講師およびスタッフ 6 名

成果：近年発生している豪雨災害も含めた最新の病院 BCP に関する講



義および、東日本大震災の経験をもとにしたシミュレーションで多様な背景を持つ受講者の活発な発言が聞かれた。また、受講者が持ち寄った各所属機関の災害対策マニュアルやBCPを共有し、テーブル毎に自分たちが検証したい災害テーマを選定し、テーマに基づいた訓練の企画・運営について活発な議論がなされ、非常に具体的かつ充実した内容の訓練計画が作成された。参加した受講生のアンケートから、研修会内容について「とても満足した・満足した」、「とてもよく理解できた・理解できた」と参加者全員より回答があった。また、「ディスカッションしながら内容を整理していけるので、参加型の実習で良かった。」「意見交換がしやすかった。」「他院のBCPを見る機会となり、非常に参考になった。」などの意見も聞かれ、本研修会が受講生の知識やモチベーションの向上に寄与することができた。



6) 災害対応マネジメントセンター活動

災害対応マネジメントセンター・災害コーディネート部門企画会議

※企画運営担当：4名

開催日時：毎月第1・第3月曜日を基本に開催。 2024年度開催実績：19回

実施形態：現地開催＋WEB会議形式

開催内容：

- ・院内の災害対応に関する各種委員会、各種WGにおける進捗、課題の共有を行い、ディスカッションを通して課題解決に向けて対応した。
- ・DMATに関する体制整備や隊員の育成、各種訓練・研修会における院内への協力依頼、代替EMISへの移行に関する情報共有、研修会受講環境の調整、種類の災害に関する情報発信等について検討を行った。
- ・県内で開催される各種訓練・研修会の企画運営に携わり、事前の各機関との連絡調整会議、事前勉強会企画、訓練準備等を行い、実施後の振り返りより課題を抽出し、宮城県内の災害対応の底上げを継続して実施した。
- ・宮城県の委託事業である2つの研修会について、企画・運営を行い、病院職員にも業務として参加いただき、宮城県内の災害拠点病院スタッフにも運営にご協力いただくなど、県内および災害GP受講生に災害医療対応を学ぶ機会を提供することができた。
- ・災害GPにおける各種研修会の準備状況、進捗を共有し、円滑な研修会の開催に向けた調整を行った。